



専攻医
の主張

専攻医1年目を迎えて

広島赤十字・原爆病院 腎臓内科 植田 真悠子

広島赤十字・原爆病院 腎臓内科レジデントの植田真悠子と申します。私は、中学高校はノートルダム清心中・高等学校、大学は広島大学と、生粋の広島育ちの人間です。趣味は県内のグルメを堪能することで、先輩方や友人と一緒に新しい飲食店を開拓することが今の一番の楽しみです。2021年に広島大学を卒業後、広島赤十字・原爆病院で初期研修を行い、今年から同院の腎臓内科の一員として勤務しております。現在勤務している広島赤十字・原爆病院では、腎臓病や血液透析、腹膜透析など多くの専門的な内容を経験できるほか、幅広い科と併診する機会も多く、次々と新しい症例と出会い、学びの多い日々です。まだまだ未熟な部分が多く、腎臓内科の先生方や、時には他科の先生方に助けていただきながら、日々研さんを積んでおります。

もともと医師の仕事に憧れて医学部に入学した私は、大学での講義や実習、特に5年次のポリクリではすべてのことが新鮮な体験で、回らせていただいたどの科も楽しく充実していた思い出があります。6年次では、さらに実践的な実習や市中病院での実習を楽しみにしておりましたが、残念ながらその年から流行したCOVID-19の影響により、病院内での実習はすべて中止となりました。手探りの状態で何とかオンラインでの講義や実習を企画し、時間を割いてくださった先生方には、今でも本当に感謝しております。

思い通りにいかなかった一年でしたが、やっとの思いで卒業することができ、初期研修を迎

えた私は、当時志望科どころか、何が自分に向いていて何がやりたいのか、まだ将来のことがあやふやな状態でした。広島赤十字・原爆病院はほとんどの科がそろっており、研修医としてさまざまな科を回り、たくさんのことを経験する中で、結局昔から自分が憧れていた医師のイメージに近い内科に落ち着きました。とはいえ内科もさまざまで、専攻科を決めるのに非常に悩みました。研修医の業務に少しずつ慣れる中、任せてもらった水分の調整や電解質の補正を考えることが実は好きなこと、一生付き合わなければならない病気を診ていたいと思ったことなど、研修医として働く中で気づいたことは学生の頃は考えてもいなかったことばかりで、やはり実際に携わることが大事だと痛感しました。自分の興味があること、やりたいことを少しずつ見つけて、友人や先輩方の話も参考にしながら、最終的に腎臓内科の道を選びました。

そのような経緯で現在腎臓内科医1年目として働いているわけですが、腎臓内科という領域は研修で思っていたよりもはるかに奥が深く、難解なところが多いことを実感しながら日々業務をこなしております。時につらいことや悔しい思いをすることもあります。できなかったことができるようになったり、患者さんが喜んでくれたり、そんな小さな達成感の積み重ねを感じながら、よりハイレベルな腎臓内科医を目指してこれからも精進していこうと思っております。まだまだ未熟な私ですが、ご指導ご鞭撻^{べんたつ}のほど、よろしくお願い申し上げます。